

「協同」

～共に生きる力～

H29. 11. 20

1 「協同」とは

人は『共に生きる力』をつけていかななくてははいけません。それが「協同」であると考えます。「協同」とは、「心を合わせ、力を合わせて活動すること」です。共通の目的のために力を合わせることです。その為には、色々な集団と携われるよう鍛えていく必要があると思います。

2 共に生きる力

(1) 「会話力」

人は、色々な集団と携えなくてははいけません。そこへスムーズに入ることができるには、まずはその集団が話しやすいという雰囲気を持っていないと考えると、その場のリーダーが「会話力」を持ち、穏やかな雰囲気で場を盛り上げることができれば、皆が安心して話すことができると思われれます。しかし、そのリーダーはだれがなるのかは未定です。だから、すべての人がその力をつけなくてははいけません。

(2) 「所作力」

人が、仲間と携えながら活動するとき、必ずそこには一定のルールができます。そのルールを守れる力は、日常の基本的な「所作力」を鍛えていくことで身につけていくと考えます。不必要な競争や無駄な不快感を引き起こさないためには、挨拶と感謝が最も大切と思われれます。それは、挨拶をすることは相手の存在を認め、感謝をすることは相手の行動を認めるということになるからです。

(3) 「発表力」

人が、一定のルールを守り、仲間と携えながら活動している目的は何でしょう。それは、生涯を生き抜くため、仕事に就いて生活の糧を得るためと考えます。そこで、「発表力」(特にプレゼン能力)が重要でないかと思われれます。その為には、その発表の素材となる体験が多くななくてははいけません。しかし、たとえその体験機会があっても、それをしてみようとしなくてははいけません。色々なことにチャレンジしていこうという精神も育てたいものです。

3 集団・表現力を鍛える

共に生きる力は、集団を鍛えるということになります。もちろん生徒は、地域社会でも色々な集団の中にあります。とりあえずは学校全体が、何でも話せる和やかな雰囲気が保てる必要があります。

それは、生徒個々の表現力を鍛えることにほかなりません。そのためには、言語文化の豊かさを実感できるよう、読書や古典・英語学習が共に生きるためには不可欠なのです。

